

# CATCH the NEW!

## ■Poety Party

### 倒錯とエロスの世界に迷い込む。 京都発、期待のダンスユニット。

昨年10月に、京都のギャラリイで行なわれたダンス・ライブ「オレゴンバキウム」「リトープスボエティカ」に出演したタンサー、摸水、野口千佳、鈴木凛一の3人によって結成されたユニット、それがPoety Partyである。昨年は、「仮面音楽会」と称したりんくうパークでのアトラクションや、12月31日の京都ライブスポットRAGでのカウントダウンライブなど、幅広い活動で、好評を博した。

彼らがダンスの際に身につける独特のコスチュームや、スタッフインゲグッスとして製作されるぬいぐるみ(ナイロンのバンテイスーツキングに、引き裂かれた綿やスポンジ、ジャム、ゼリーなどを詰め込んだもの)などは、表現しがいな衝撃と、見る者を不安にし、かつエロティックな気分誘い込む不思議な力を秘めている。彼らの二つのイベントが、再びこの京都で行なわれる。

VISUAL MUSICを奏でる松尾泰伸SYMPHONYと共に繰り広げる摩訶不思議な世界の「GOOD MORNING・SOLL」と、彼らが製作する「スグミ」と名づけられたぬいぐるみを取集、研究しているという、謎の(?)人物M.R.N・キデヒトの秘密の部屋を公開する「NUGOOMMY」だ。詳細は左記まで。

#### ■GOOD MORNING・SOLL

・4月7日(金)  
・ライブスポットRAG  
(中京区木屋町三条上ル エンバイビル5F)  
・OPEN 6:00 PM  
・START 7:30 PM  
・出演ダンサー/Poety Party  
・ミュージシャン/松尾泰伸SYMPHONY



前売 3090円  
当日 3605円

#### ●チケットぴあ

ライブスポット・ラグ  
075・241・0446  
ラグ・インターナショナルミュージック  
075・712・5838  
Poety Party  
075・682・7854

#### ■NUGOOMMY (又グミ)

・4月21日(4月30日)  
・スペースOne  
(京都市上京区榎木町通西洞院西入ル)  
・12:00 PM ~ 8:00 PM  
(30日は6:00 PM)  
●スマートセット 伴田・生田  
075・211・4669  
075・211・3266



## ■シンプル・プラン 悪夢は、足音もなく忍び寄る。 28才の新鋭作家、衝撃のデビュー作。

「もしも自分に、使いきれないほどの大金があったとしたら：」

そんな他愛もない想像を、一度も思い描いたことがないという人間はどのくらいいるだろうか。

ひとには誰しも欲がある。求める欲のかたちはひとつによって異なるが、物質的な満足感を得ようとする場合、つまるところ絶対に必要な金が金という現実。では、あくせく働かなくとも、世間に背く方法で確実に金が入るとしたら。あなたなら、どこまで自分の手を汚すことを許すだろう。殺人。まさか。盗み。そんなことが出来るわけがない。法を犯してほも金持ちになろうなんて考えるほど、自分は困っていないし悪人でもない。あなたはきっとそう言うに違いない。そしてこれは、そんなあなたと同じ平凡で善良な人間が、金のために、一歩また一歩と静かに狂気の世界に迷いこんでゆく物語なのである。

主人公ハンク・ミッチェルは、オハイオ州の片田舎に暮らす青年。飼料店のアシスタント・マネージャー兼主任会計士を職とし、妊娠中の妻と二人、こじんまりとした家に住んでいる。豊かではなく、かといって貧しくもない。この生活。平凡な仕事と人並みの夢が彼の毎日を支えている。それを不満に思ったことはない。彼は真面目で、勤勉で、大それた野心などには縁がない普通の人間なのだ。ある雪の日、ハンクは兄とその友人と共に車で町はずれを通りかかる。そこで彼らが見たものは、謎の小型飛行機の残骸、そして機内に残された440万ドルの現金が詰められた袋だった。一体この金はどこから来たものなのか。機内のバ

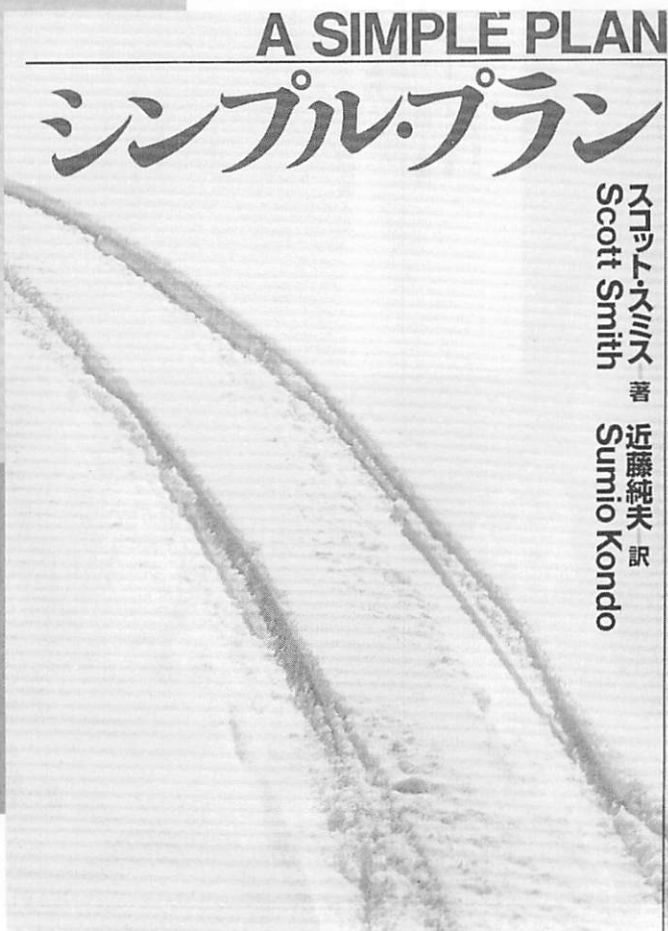
イロットの死体は誰なのか。手がかりは何ひとつ残されていない。しかし、混乱の中で彼らはあることに気づくのだ。これを発見したのは自分たちだけだということ。そして、たとえ今この金を持ち去っても、誰にも知られないのではないかということに。

「警察に届けよう」と言うハンク。「これはもう俺たちの金なんだ」と主張する兄のジェイコブ、そしてその友人ルー。最初は抵抗していたハンクも、金の誘惑の前について身を崩す。誰にもわかることなく、すべての金を完璧に自分たちのものにするには一体どうすればいいのか。ハンクはある計画を思いつく。簡単で、安全な、シンプル・プラン。それが、自分たちの恐るべき破滅への第一歩だとは知るよしもなく、3人の男は、雪の中で誓いを立てるのだった。

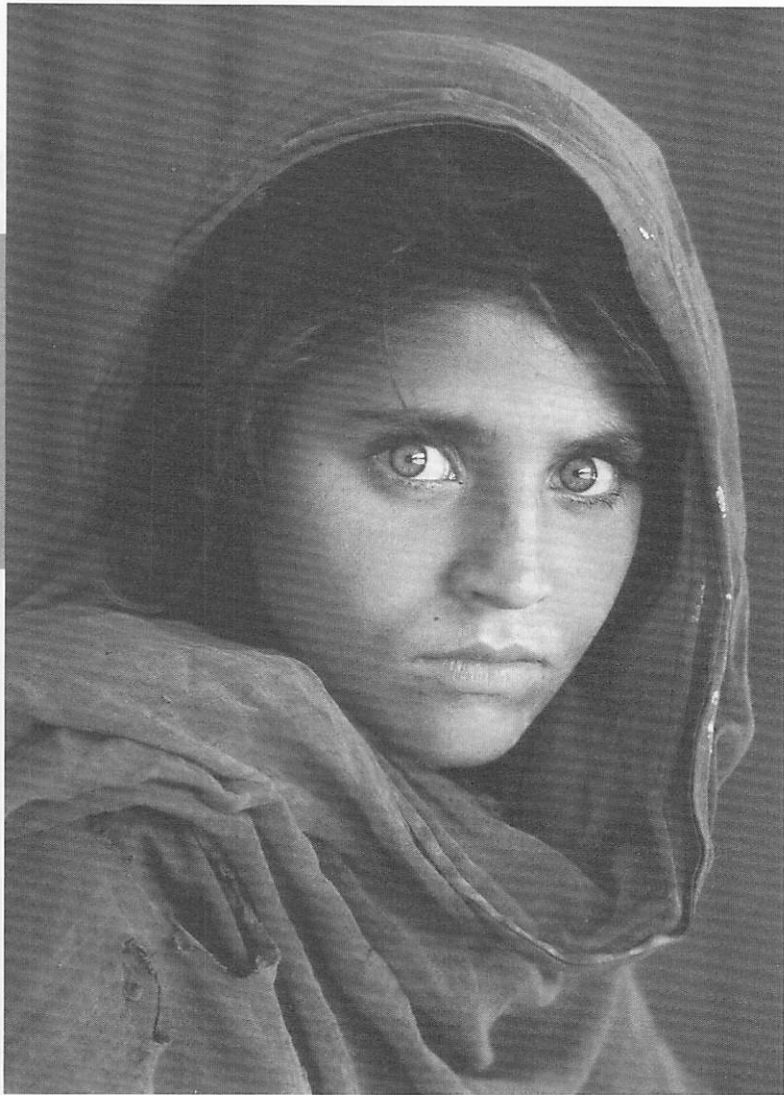
原作者スコット・スミスは弱冠28才。この作品が処女作というのだから驚かされる。アメリカでは発売日にとどき書店でも売り切れ状態となり、ホラーの帝王ステイヴン・キングも手放しに絶賛。キング自らがテレビのトーク番組に出演し、この作品の素晴らしさを延々に語るという「事件」まで起きたらしい。今年ナンバーワンのミステリーという呼び声も高く、デビュー作がここまで話題になる作家も珍しい。この物語の魅力は、なんととってもその簡潔さにある。舞台となるのは小さな田舎町であり、登場する人間たちに何ひとつ特別なところはない。キングやクインツの長編なら、ここに突如として、この世のものではない超自然な現象や物体が現れることもあるが、この物語にその種の事件が起こることはない。3人の男たちが欲にかられ、そこから運命がとんでもない方向へゆっくりと転がり出してゆくさまが淡々と描かれているのである。それはスピードを要しない。悪夢はじわりじわりと主人公を追いつめ、彼を「こんなはずではなかった」という思いと共に深い地獄の谷底へ突き落とす。読みながら幾度も戦慄をおぼえるのは、これが

まるつきり別世界の話ではないからかもしれない。もし似たかたちで自分の身に起こったなら、あなたならどうするか。そんなことを考えながら読むのも悪くない。スコット・スミスは、結局のところ、世の中で最も恐ろしいものは人間の欲望であると言いたかったのではないだろうか。なお、この作品は早々に映画化が決定している。映画が原作を超えるのは困難であるというのは定説だが、果たして結果はどうなるか、こちらも注目したい。

■シンプル・プラン  
スコット・スミス／著  
近藤純夫／訳  
(扶桑社ミステリー・720円)



SIMPLE PLAN



スティーブ・マッカーリー撮影  
「アフガニスタンの難民の少女」  
©National Geographic Society

## ■「ナショナル ジオグラフィック」 地球を知り、地球に触れる雑誌

「地理学の知識を高め、普及させる」ことを目的として1988年に創刊された「ナショナル ジオグラフィック」。ワシントンで創立された米国の非営利団体、ナショナル ジオグラフィック協会が会員のために発行するオフィシャルジャーナル（会員誌）としてのスタートだった。現在は平均1年以上の長期取材をもとにした本格的な記事と、世界でも屈指のカメラマンが撮りおろす美しい写真で、常に時代をリードするグラフィック・ジャーナルの先駆者としての地位を確立している。こ存じたらうか、日本でも大ベストセラーとなった「マディソン郡の橋」の主人公は「ナショナル ジオグラフィック」に写真を寄稿するカメラマンという設定になっていた。このことからわかるように、本国では一般家庭でもよく読まれている雑誌なのである。そして待ちに待った日本版が、4月15日に発刊されることとなった。一般の書店では扱っていないので講読には申し込みが必要。

■ナショナルジオグラフィック日本版  
・B5変型判/160ページ(平均)  
・毎月1回、15日発売  
・1年間(12冊) 7800円  
・3年間(36冊) 19900円  
(共に送料・税込み)

〈申し込み〉

読者サービスセンター

03・5605・7420



ジム・ブランデンバーグ撮影  
「獲物を探す北極のオオカミ」  
©National Geographic Society



## ■レオン

# ベッソン初のハリウッド進出作品。 12才の少女に愛された殺し屋。

本国フランスはもろろん「グランブルー」「ニキータ」などで日本でも絶大な支持を集める監督リュック・ベッソン、その初のハリウッド進出作品となるのが「レオン」だ。全米ではフランス人監督としては異例の拡大公開体制が取られ、先駆けて公開されたフランスでは、すでにベッソン作品としては驚異的な大ヒットを飛ばしている。

完璧に任務を遂行するニューオータキの殺し屋、レオン。「女と子供は殺らない」というルールを守り続ける寡黙な男の元に、悪徳警官に家族を虐殺された12才の少女マチルダが助けを求めて逃げ込んでくる。レオンが殺し屋であることを知り、大好きな弟を殺した復讐のため自分も殺し屋になったいと懇願するマチルダと、秘密を知られた彼女を追い出すこともできずいつしか守ろうとするレオン。

親娘のような二人の間に新しい気持ち芽生えた時、二人は宿命の戦いに巻き込まれていく。

ベッソンが「ニキータ」の掃除人ヴィクトールからイメージして書き下ろしたというこの映画の主演には、彼の作品ではいつも重要な役を演じてきたジャン・レノ、さらに音楽は18才の頃からの友人でベッソンのすべての映画を担当してきたエリック・セラ、といわゆるベッソン・ファミリーが結集。初のワールド・ワイドな製作進出だけにハリウッド俳優のゲイリー・オールドマンに数ある候補者の中からベッソンにキャスティングされた期待の新人ナタリー・ポートマン、ベテランのダニー・アイエロがしっかりと脇を固めている。

レオンてのが殺し以外あらゆる感情を廃

し、一日2パックの牛乳とトレーニングを欠かさず、自分のように根の張る事のない鉢植えの観葉植物に水を与えることだけが唯一の楽しみという男。アクション・シーンの冷静で完璧な振る舞いとは裏腹に、それ以外のシーンでは孤独でありながらも純粋に描かれた彼の内面が少々痛々しいくらい。名作ものが上映されるほほー・ゲストの映画館で初めて見せるイノセントな笑顔、殺しのテクニクと引き替えて少女から読み書きを習うたとどろしい顔つき、殺しの報酬を育ての親トムにそっくり預けてしまう無心さなど。普通ではありえないこれらの年に不似合いな少年ほさが、突出すればする程、当たり前前の男としてのバランスを欠いた彼の悲しさが際立って見える。少女のストレートな言葉に動揺して牛乳を吹き出してしまったりなど実に少年なのである。キャラクター設定やストーリー展開のわかりやすさは、やはりアメリカ映画を意識してか。だがベッソンだけに、感情をかきたてるアクション・シーンやヨーロッパ的感情の含みはさすが。ベッソンも「完璧だ。」と絶賛する、これが映画初出演になるナタリー・ポートマンにも注目である。

文/端井由紀子



●SY松竹にて、3月末より公開。



## ■ふたりのロツテ

# ある日突然、 自分とウリふたつの人間に出会ったら……？ キュートな双子がとりもつ、 パパとママの仲直り作戦。

とおとしたルイスが気がくわらず、なにかにつけて意地悪で攻撃する。だが宿舎で同室になったとき、改めてお互いの顔を見た二人は仰天、周囲もア然。プロンドの髪にブラウンの瞳、顔かたちから背丈まで、まるでウリふたつだったのだ。調べてみると生年月日までまったく同じとまで、二人が実は真正正路の双子であることが判明する。この始まりは10年前。両親の離婚によって離れ離れに暮らすことになったシャルロツテとルイスだったが、当時はまだ赤ん坊だったため、自分たちが双子であるという事実を知らされないまま現在に至っている。

世界中の女性たちに愛され続けている永遠の名作「ふたりのロツテ」が公開される。過去に「買にかかったパパとママ」のタイトルでデイズニーにも映画化されたこの小説は、「飛ぶ教室」「エミー」と探偵たち」など、時代に残る児童文学を次々と生み出したエリビ・ケストナーの代表作である。そういえば小学生のころ、図書館には必ず「赤毛のアン」などと共に並んでいた。読んだ記憶がある人も多いだろう。

度々生み出したエリビ・ケストナーの代表作である。そういえば小学生のころ、図書館には必ず「赤毛のアン」などと共に並んでいた。読んだ記憶がある人も多いだろう。度々生み出したエリビ・ケストナーの代表作である。そういえば小学生のころ、図書館には必ず「赤毛のアン」などと共に並んでいた。読んだ記憶がある人も多いだろう。

たのである。自分に双子の姉妹がいたなんて！二人の心はたちまち通じあい、以心伝心の間柄に。だが双子といえども、その性格は正反対。売れない作曲家で自由奔放に生きる父親に育てられたシャルロツテは、おてんばで勉強嫌いの活発少女。一方、広告代理店でバリバリにキャリアアウマンしている母親に育てられたルイスは、超おとしやかな秀才タイプときてる。「どうしてパパとママは別れたのかしら？」「なぜ私たちのことを秘密にしたの？」「もう一度、家族みんなで暮らしたい！」サマースターの終了と共に、二人は大胆にも入れ替わり作戦を決行する。別々に引き離されてから一度も会っていないパパ（ママ）に会うため、シャルロツテはルイスの、ルイスはシャルロツテの家に居るのだ。まさか双子の娘が再会していたとは夢にも思わぬ両親は、二人が入れ替わったことなど知るよしもない。しかし、性格も環境も全く異質の双子である。互いの家の様子に度胆を抜かれ、あたふたするくんだりばかり笑える。ルイスは金銭苦の父親に、シャルロツテは上司に結婚を迫られ悩む母親に、なんとか幸せだったころの家庭を思い出させようと、それはもう一生懸命になる。そして二人は最後の手段として、両親を引き合わせようとするのだが。果たして、壊れた家庭は昔のようにひとつになることができるのだろうか？

ストーリーの最初から最後まで、とにかくこの双子が愛らしい。ちよつとポツチャリして、ポニテールを揺らしながら手をつないで二人でニコニコと駆けてゆくところなんか、まるで子犬のようである。大人の世帯のことは理解できないけれど、でもパパとママ、仲直りして欲しいの！と健気に訴えるその姿、これだけでもうお姉さんは感激だ。子を持つ親ならなおさらのこと涙ウルウルは間違いなし。つまりこの作品は、原作の時代を今に置き換えることによって、社会が抱えている「離婚」や「家庭崩壊」の問題を真っ向からとらえており、児童文学でありながら、実のところ子供よりも大人に切実に伝わる内容となっているのである。しかも決して説教くさくない。セリフにはちゃんと伏線

があり、ラストで生きてくるところもしゃべっている。自分の気持ちに素直になれず、迷い戸惑う大人たちと、しあわせをとり戻すために前向きに頑張る子供たち。親子の対比が非常に面白く描かれているところがいい。この春、お洒めの話題作である（でも、子供がこの映画を見たなら、多分きつとこう思うだろうな。「大人って、ホントに世話がやけるんだから！」ってね。）」

文/木村紀子

●4月GW、朝日シネマで公開予定。





■Les 5-4-3-2-1 インタビュー

過去と未来をポップにダンスさせる、  
ヌーヴェル・ディズニー・ランド・サウンド。

思ったんですよ。「一番正論なやり方ですけど、最初にコンセプトがあつて、詞1曲が揃つて、で歌入れていう、その間に編曲とかありますけど。割りとシステムチックにやっちゃったというのがありますね。そうするとあつたという間にできちゃった、という(笑)。そんな風にスムーズに行く、(詞も入り出来上がった)曲を並べた時からTD(トラック・ダウン)まで、迷いもなく変わらない気持ちでつるつると行けるってわかりましたね。全部自分でやっていると色々迷うけど、最初にはしつと決められたから。

永遠のモット・サウンドを感じさせるクリエイター、サリー久保田のフレンチ・ハウスなポップ・ユニット、Les 5-4-3-2-1(以下レ・ファイブ)。彼らが待望の2nd「ラ・ロンド」をリリース。その一貫したテーマ「フレンチ・モッドジャズ、ダンス、サイケ、ブリテイッシュ・ビートを駆使し、キュートでヒップなHI-TOMIのV.Oもますます冴えた新作は、正に次代のヌーヴェル・ジャンソン・ハウス・ポップス。光速で21世紀に向かつて輝きを放っているのだ。

「ミニアルバム2枚! 1stと2ndと、段々レ・ファイブらしさが明確になってきたなという印象を受けましたね。サリー久保田(以下サリー)「正直言えば今回は、一つにまとまってきたなっていうのは、ありますよね」

「今回サリーさんは作曲家に専念。役割分担がはっきりしてますね。」

サリー「それは今回かなりきつたりやっちゃいましたね。制作するのに一番スムーズに行く方法だと思つたんですよ。」

逆に、いい意味で時間掛けなかったという」  
「作詞家(サエキけんぞう、森若香織、泉水敏郎)の方に依頼されると、それぞれの方のレ・ファイブに対するイメージも明確に返ってきますよね?」  
サリー「そうですね。サエキさんは大体想像がついてたんですけど、それ以外の泉水さんと森若さんも、それぞれの作品とか知ってたし、最初に手細かに(コンセプト等を)話してたので大体はいいじゃないですか」というものばかりで、書き直してもらったものはほとんどないくらいですね。いい意味で裏切られたところもあるんですけど」  
「作詞家の選択基準は?」  
サリー「単純に3人共全然ジャンルも違うというわけでも、作詞家先生でもないし身近な人なんです。森若さんはディレクターの方から最初名前が挙がったんですよ。そう言えは!て感じで。昔一緒にライブやったこともあったんですけど、ファントムギフトの頃に」  
「レ・ファイブでのHI-TOMIさんのキャラクターも変わってきていると思うんですけど、演じる側としては?」  
HI-TOMI「それが、以前は割と久保田さんが作った理想のキャラクターを私が演じるみたいな感じだったんですけど、今回のアルバムでは理想の、ではなく、ビジュアルにしろ曲にしろ、一度自分なりに消化した上で表現しているという感じですね。映像でも自然に振る舞っているし、私らしさも出てるし。偶像化されたもの+私らしさですね」  
サリー「彼女には、アルバムのコンセプトは話したんですけど、各曲のコンセプトは話してないんですよ。そういう裏の事情は僕と作詞家の間だけでいいんですよ。だから上がった曲に対して自分で持ったイメージでやりなさいっていうまるで先生のように(笑)」  
HI-TOMI「そっやって曲を頭でイメージして歌ったら、未来というか、天の上のディズニー・ランドみたいなモノが浮かんできましたね」



「レ・ファイブのテーマ「フレンチやブリテイッシュの要素、前作からのパングラ・ビートなものなど、今作もダンスものでないにしろやはりダンス音楽が基本にありますよね。」  
サリー「やっぱり好きなんです。ビートをどうこうすればダンス・サウンドになるんだ、というようなものじゃなくて、何かそういう感覚とかですね」  
協力/グレイテスト・ヒッツ、日本コロムビア



【ラ・ロンド】  
3,000円(税込)  
日本コロムビア



the Pillows インタビュー

色んな格好良さを吸収して吐き出した、95'S型ピロウズ。

山中「見てないからなあ(笑)。(映画の)編集がまだなので、誰もまだ見てないという(笑)。CMはもう流れてるんですけどね」  
 I (笑) 今回、インスト曲「スウィンガーズ・ナイト・クラブ」が、サントラ的に全体のイメージを広げてますよね。  
 山中「リスナーとしての自分がさういうの好きなんです。スタイル・カウシルにもあるじゃないですか。気分転換的により効果的にアルバムを聴かせるという。最初これをオーブニングにしようかと思っただけです」  
 I (笑) 「リビング」はタイトルが荒涼とした感じがあるでしょう？でも全体では日々の些細な幸せに涙してる感じですかね。  
 山中「俺の歌詞をポイントで括るとね。(イメージを)

昨年シングル「コイドリーム・ワンド」がFM80.2ヘビーローテーションになったピロウズ。彼らがそのシングルを含むニュー・アルバム「リビング・フィールド」を3月24日にリリース。同時発売のシングル「ガールフレンド」は、中山美穂、豊川悦司主演の映画「ラブ・レター」(京都朝日シネマにて3月25日より上映)のイメージソングとしてテレビCMオンエアが決定。また新たな話題を呼びそうなのは、4月には大阪でのライブも決定。V.O.&ギターの山中さわおにインタビュー。

I シングルの「ガールフレンド」は映画のストーリーから作ったんですか？  
 山中「残念ながらそうじゃないんです。それなら今までやったことのないようなこともやりたかったんですけどね」  
 I 映画のあらすじを読んだら、「ガールフレンド」の泣いちゃう感じがびったりだな、と思ったんですけどね。  
 山中「そう、だね。単純にピロウズとして今までやったことのないようなグループのものが刺激的だし。単純に作ったときのテンションが、こういう後ろ向きな気分、これをクイック出したかったのが一つと、タイトルにしようとは、ラジオとかでアルバムを紹介された時に僕が何も言わなくてもこれをかけてくれるかな。この曲前面に出したかったから、タイトルになった」

I 「コイドリーム」なポップ・バンドばかりでなく、もっとバンド的なピロウズを出したかったと？  
 山中「日本にさういうバンドが少ないからなんだけど、僕らは生まれた時から既にあらゆる音楽があったと言ってもらっていいんですけど、そこ育って来て、色んな格好良さを吸収して吐き出す甲斐性があった才能があれば、色んな面を打ち出していきたいんです」  
 「リビング・フィールド・ツアー」  
 4月24日(月) / 大阪ウォールホール  
 問い合わせ / 夢番地 06・341・3525  
 協力 / キング・レコード、夢番地

I (イメージを) 限定したような説明的な歌詞が苦手。オーヴァーラップし辛いし。それが結果的にそうなったと思うけどね。自分なりに限定してるけど(笑)、自分の経験したことか？  
 I アルバム中「ザ・キリング・フィールド」は唯一英詞の曲ですね。  
 山中「最初アルバム・タイトルでもあったあの曲に関しては、僕本来の歌のメロディから来て、コード進行とメロディの響きで作ると言うフォークシンガ的な作り方じゃない、本当にサウンドから作ったバンドっぽい曲なんですね。あんまり日本語に括らない方がいいと。それが上手くいった曲かな」  
 I 当初「キリング」がタイトルだったってことですが、やはり今回テーマはバンドらしさを出して行くことという？  
 山中「そう、だね。単純にピロウズとして今までやったことのないようなグループのものが刺激的だし。単純に作ったときのテンションが、こういう後ろ向きな気分、これをクイック出したかったのが一つと、タイトルにしようとは、ラジオとかでアルバムを紹介された時に僕が何も言わなくてもこれをかけてくれるかな。この曲前面に出したかったから、タイトルになった」



「リビング・フィールド」ピロウズ  
 3,000円(税込)  
 キングレコード

CATCH the NEW!